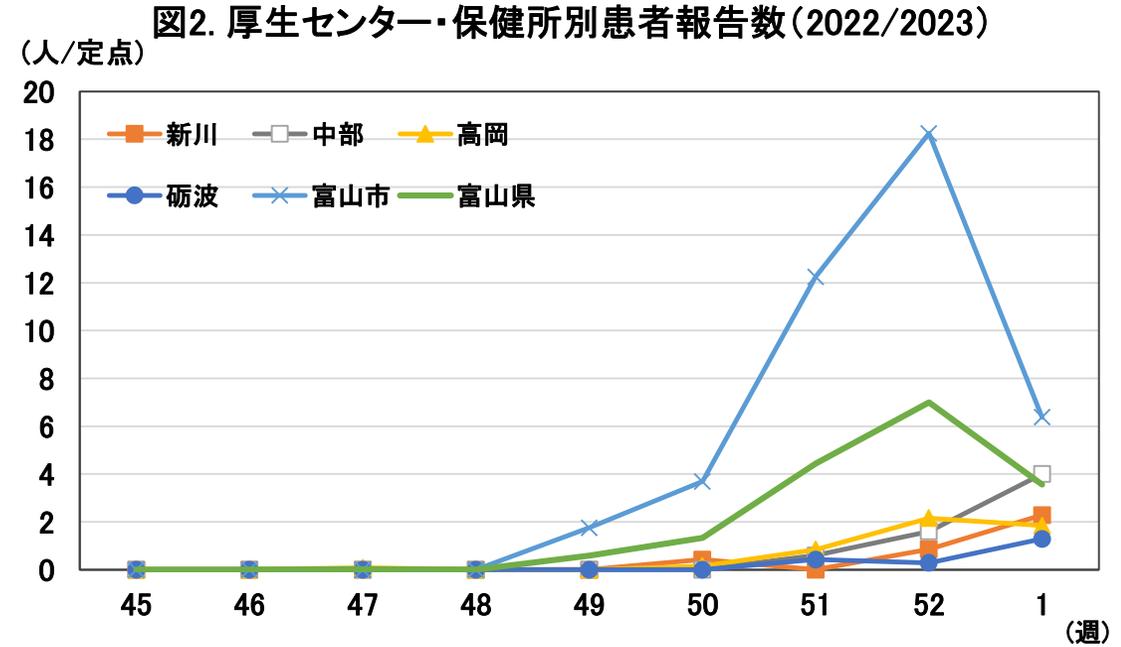
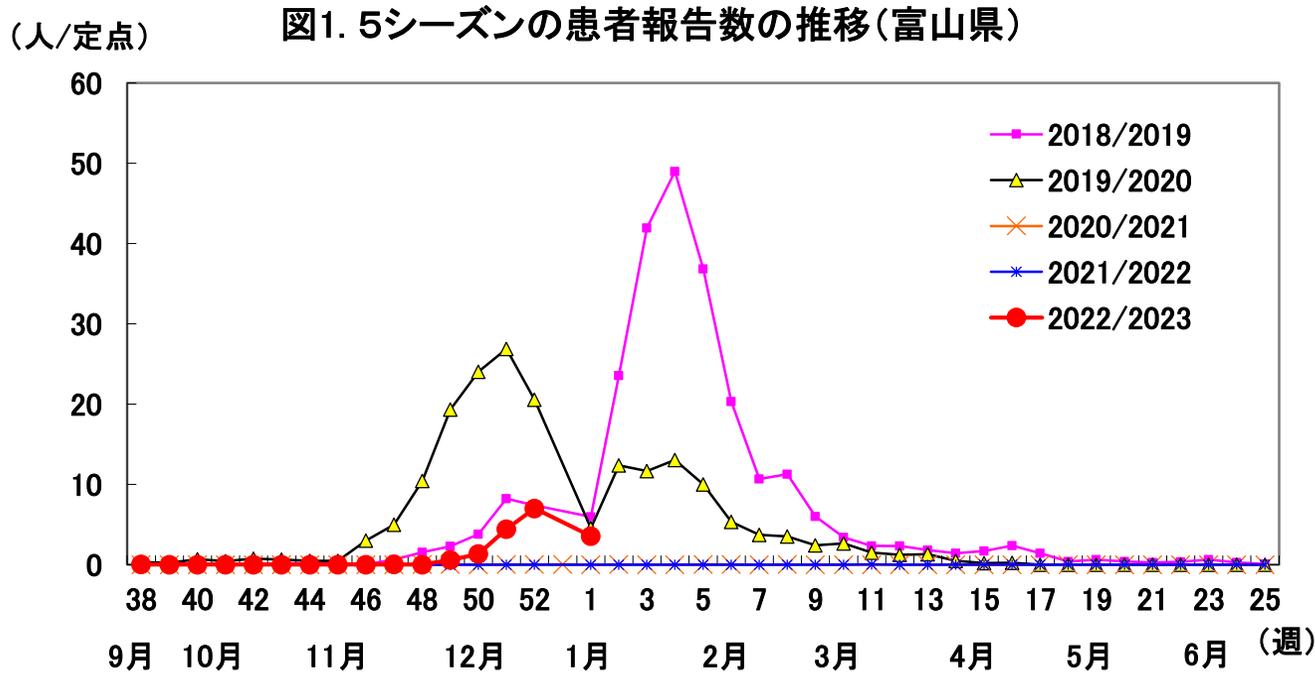


# インフルエンザの発生状況(富山県)

【第1週(2023/1/2~8) 感染症発生動向調査速報値 (2023/1/11時点)】



- 新型コロナウイルス流行後の2020/2021、2021/2022シーズンは流行が認められなかった(図1)。
- 2022/2023は、富山県では第50週 (12/12~12/18) に流行シーズン開始の目安である1人/定点を超えている。今週の報告数は**3.56**人/定点となり、先週 (7.00) から減少した。
- 厚生センター・保健所別に見ると(図2)、富山市管内 (水色) で第52週 (18.25) まで急増したが、今週 6.38人/定点に減少した。一方、新川、中部、砺波管内では増加傾向が続き、今週全ての管内で流行シーズン入りの目安である1人/定点を超えた。

※COVID-19流行に伴う受診控えなどの影響により、インフルエンザの流行状況を過小評価している可能性などが考えられ、データの解釈に注意が必要。

図3. 年代別割合(富山県、第1週)

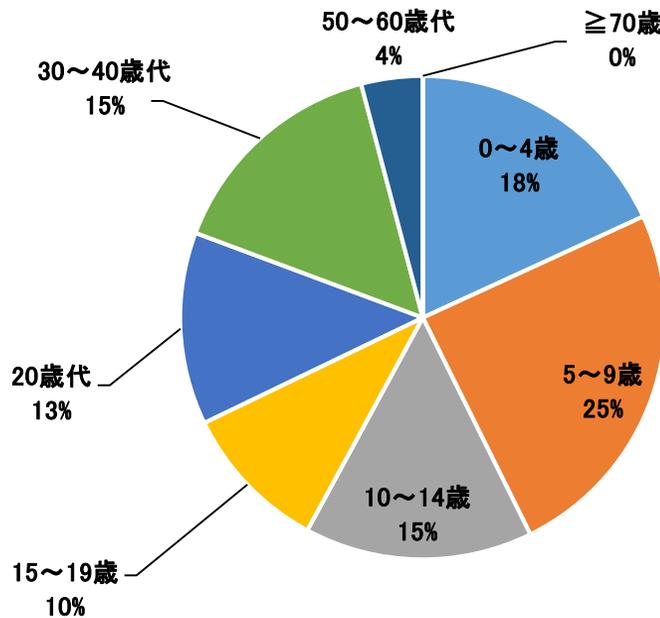
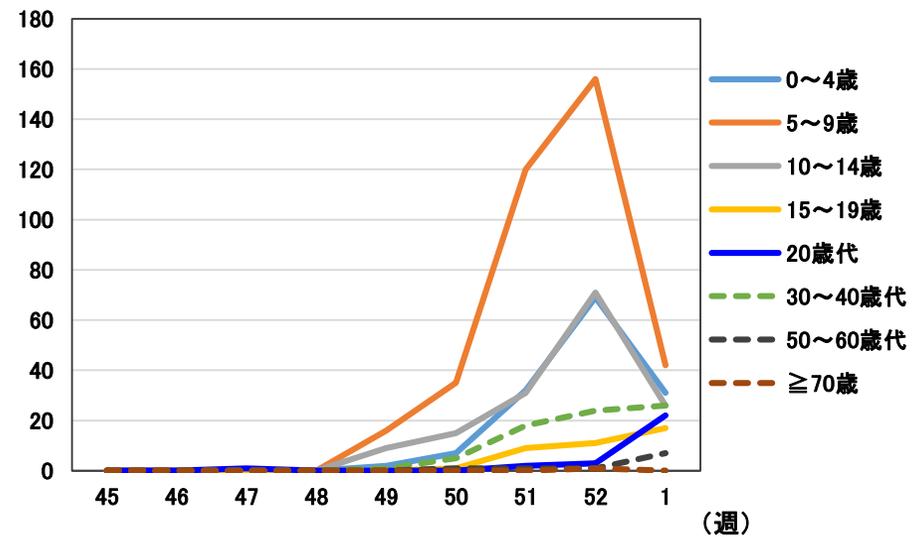


図4. 年代別報告数の推移(2022/2023)



- 富山県の第1週の年代別割合 (図3)では、15歳未満の小児が58%を占め、先週(88%)から減少した。
- 年代別報告数の推移 (図4) では、15歳未満の年代で、今週顕著に報告数が減少した。冬休みによる学校内での感染機会が減少した影響が考えられる。  
一方、20歳代 (青) は顕著に増加した。また、15~19歳 (黄)、30~40歳代 (緑点線)、50~60歳代 (黒点線) においても、増加が認められた。

図5. 都道府県別インフルエンザ報告状況(第52週)

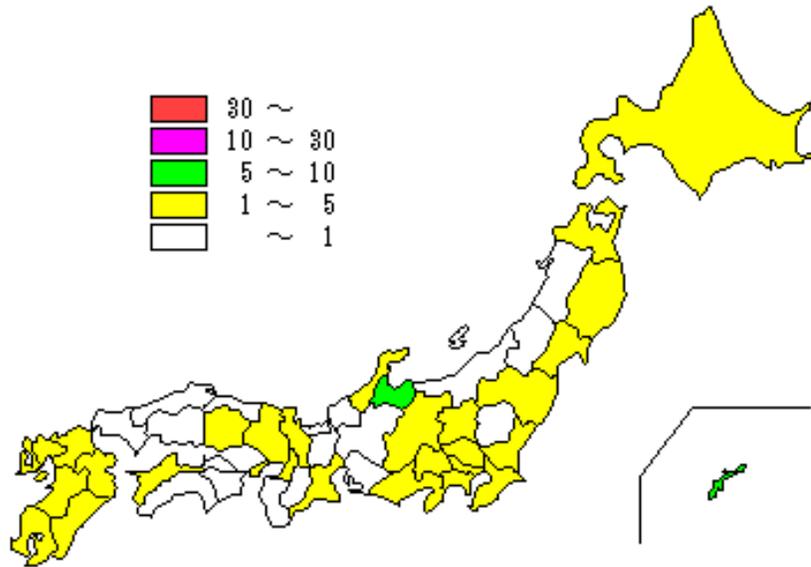
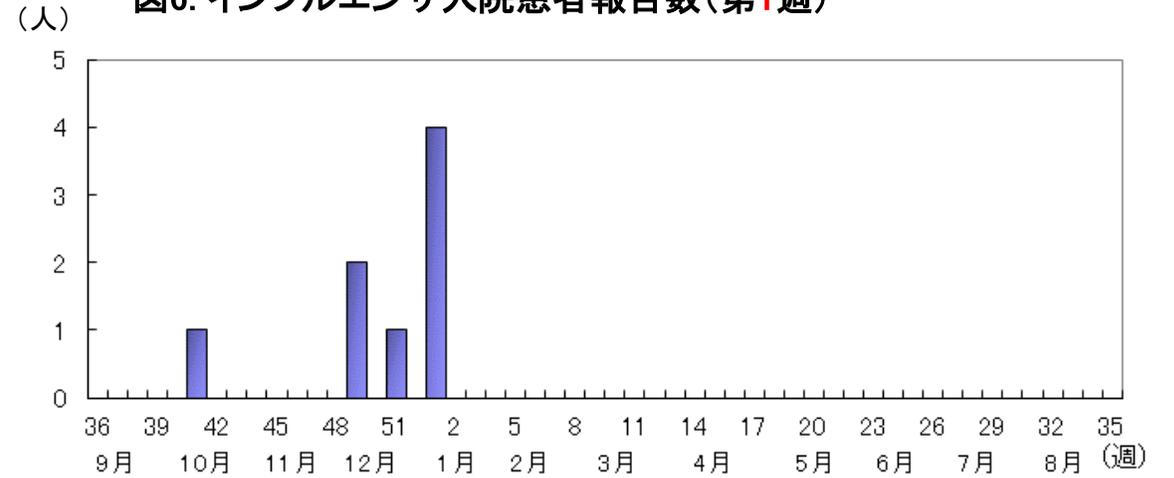


図6. インフルエンザ入院患者報告数(第1週)



- 全国では第52週に2.05人/定点となり、第51週（1.24）から増加した。なお、都道府県別(図5)では29都道府県で流行シーズン入りの目安である1人/定点を超えている。その中で富山県(7.00人/定点)は2番目に報告数が多かった。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランス（図6）では、第1週に4例の報告（60歳以上3例、乳幼児1例）があった。
- 今後、学校や会社等が再開され、市中での感染拡大、それに伴う入院患者（重症例）の増加が懸念される。